



「にいかっぷピーマン」の選果場

牛・ピーマンについては、更なる産地化の確立を目指すとともに、生産性の向上と経営安定に向けた支援策を継続してまいります。

軽種馬に関しては近年、市場取引が好調に推移し、経営安定が図られておりますが、過去の歴史において生産者にとって厳しい時代も経験しておりますことから、引き続き関係者と連携した販売対策事業や強い馬づくり事業に意を用いてまいります。

酪農業については、生産農家の減少傾向が見受けられますことから、地域おこし協力隊制度を活用した新規就農研修生の確保などを通じ対策を強化してまいります。

稲作に関しては、現在コメ価格の高騰が問題となっており、生産者の皆さんは日々、食味を追求した生産活動を展開しておりますので、引き続き、新冠産米の消費拡大に向けた取り組みを支援してまいります。

次に、漁業についてですが、近年地球温暖化の影響や赤潮の影響で、漁業環境は著しく変化しております。環境変化に対応した漁業のあり方に関し、「つくり育てる漁業」の可能性を含め漁業協同組合と更なる連携を図り対策を強化していく考えであります。

林業に関しては、地球温暖化を抑制する環境にやさしい木材生産が伸び悩む傾向にありますことから、人材育成を含む課題解決に向けた対応について支援を継続する考えです。

商工業に関しては、商圏人口の減少に伴い経営環境は厳しさを増しているほか、人材確保も大きな課題となっておりますので、産学官が連携した人材養成や仕事の魅力の発信に努めるとともに、起業を目指す方への支援制度を創設するなどして地域経済活動の活性化を図ります。

観光に関しては、本年度において新冠インターチェンジが開通し、交流人口の増加が見込まれ、町内の観光施設にとって誘客事業の展開にも可能性が広がるため、観光協会を中心とした関係者の皆さんとの連携を深め支援を強化する必要があると考えています。

同じく、道の駅周辺の開発にも期待が寄せられるところですが、新冠インターチェンジ開通後の人流状況を見極めながら、JR敷地、第二駐車場を含めた整備基本方針を取りまとめていく考えで、民間活力を導入する整備・運営も視野に入りたいと考えています。



令和7年度中の開通を予定している新冠インターチェンジの入口

4 安心安全を感じる町
 四点目は、『安心安全を感じる町づくり』についてです。

今の時代、なんといっても災害に対する備えは重要となります。いづどんな災害に見舞われるかわからない時代に直面し、対策の強化は必須でありますので、町民の皆さんの予測や訓練、準備といった基本行動を定着させていく取り組みを重点化させてまいります。

現在、総事業費約5億円をかけて進めております節婦町地区の津波避難タワーは、有事の際、最大約300人の避難が可能な施設です。この施設を広く町民の皆さんに



津波避難訓練の様子

もご覧いただくとともに、防災教室を開催するなどして防災意識の向上に役立ててまいりたいと考えます。

また近年、救急車の出勤件数が増加しております。日高徳洲会病院の誘致も見据え、町民の皆さんの安心を確保するために消防新冠支署の職員体制を強化してまいります。

さらに、安心な町づくりの基本は何といつても財政力の確保といえます。

現在町では、財政の安定を目指し、行財政改革を推進しておりますが、自主財源の確保は財政力を高める方策であり、税収の確保のため、人口減少の抑制や住宅建設の促進などに加え、産業を中心とした経済活動の活発化への取り組みは継続した取り組みを展開する考えであります。

また、経常的な財源として不安要素はありますが、各種ふるさと納税も特定事業への財源としては有効な財源でありますので、各事業者の皆さんとともに取り組みを強化していく考えであります。

5 住んで良かったと思える町

五点位は、『住んで良かったと思える町づくり』についてです。

自らの町を誇りに、真に住んで良かったと思える町にしていくことが町づくりの基本だと考えます。

国全体が抱える人口減少・少子高齢化という現実を直視し、受け入れる覚悟をもった中で、それらを鈍化させる方策を講じながらも、町民生活に直結する課題解決を重視した事業を展開していく考えであります。

まず、本年3月当町は、ゼロカーボンシティ宣言を行いました。これに対応する新たな事業として、一般家庭の再生エネルギー導入（太陽光）に対する助成制度を創設したいと考えています。

また、昨年取得いたしました役場裏手の町有地約4万平方メートルに関しましては、町づくりを進める上で、さまざまな可能性を秘めた町有地と認識しています。

公共施設の建て替えや宅地分譲や定住移住促進策としての賃貸住宅、マンション建設の計画も想定して取得した土地でありますので、早期に他の町有地を含めた活用計画を策定していく所存で



昨年取得した役場庁舎裏手の町有地

ですが、町民の皆さんの意見・発想もお伺いしながら、最善の活用を図ってまいります。

さらに、公共交通手段の減少により生活に不便を感じておられる方々への対応として、誰もが利用しやすい持続性のある地域交通体系を追求していくほか、各地域で課題となる買い物環境に関しては、現状の買い物支援事業を中心に、民間の移動販売や宅配事業の活用を積極的に推進してまいりたいと考えます。

最後に、町の活力や活力を感じるものの一つに、若い世代の活動があげられると考えます。

青年活動が盛んな町は、将来への期待や希望を感じさせてくれますし、町づくりを進める上で大きな力となることは言うまでもありません。

新冠町は、ふるさと祭りや、夏冬の子ども向け事業、道の駅の賑わいの創出などにみられるように、青年の工夫と頑張りが町の活気をけん引してくれていると感じていますし、誇りに思っています。

将来に向け、歴史や文化を継承し町を持続させていくために、大きな力となるであろう青年活動に対しては、町としてできる限りの支援を継続し、共に町づくりを推進したいと考えております。



12月の恒例行事「イルミネーションフェスタ」を主催する新冠町青年団体連絡会議の皆さん